

# 県内100棟を突破

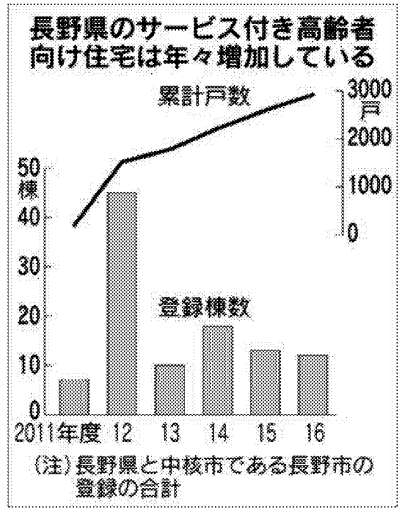
## 診療所など併設型増える

バリアフリー構造で安否確認や生活相談にも対応する賃貸住宅「サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）」の登録が長野県内で100棟を突破し、戸数も近く3000戸を超える見通しになった。有料老人ホームなどより比較的安価で入居できるので需要は根強く、最近では診療所やフィットネスクラブを併設する複合施設も目立つ。県内ではサ高住の事故件数は少ないが、県は定期的に施設を巡回指導している。



ロビテールー日市場の共用スペースでは入居者同士が交流している（安曇野市）

平均費用は月13万4000円



サ高住は地域全体で高齢者を支える地域包括ケアシステムの一翼を担う。国は2011年に制度化した。補助金などで建設を後押ししてきた。全国の今年3月末時点の登録件数は6633棟、21万6800戸に上る。長野県内でも今年3月末時点で105棟、2919戸に達した。地域別では

長野市が26棟と最多で、松本市15棟、飯田市11棟、上田市8棟と続く。長野県に登録があった79棟をみると、最低家賃は平均で5万6000円。共益費や状況把握・生活相談、食事の提供（サービス未実施事業所除く）を合わせると平均費用は月額13万4000円だった。

▼サービス付き高齢者向け住宅 2011年の高齢者住まい法改正で制約され、同年10月に都道府県、政令指定都市、中核市での登録が始まった。専用部分の床面積が25平方メートル以上（共用部分が十分なら18平方メートル以上）でバリアフリー化が条件。安否確認と生活相談サービスを義務付け、ケアの専門家が少なくとも日中は常駐しなければならぬ。60歳以上が介護保険の要支援・要介護認定者が入居できる。原則として国が1戸120万円を上限に建設費の10分の1、改修費の3分の1を補助し、税の優遇や融資制度もある。

よると、「入居者の要介護度は最高でも2で自立生活できる人ばかり。職員が24時間常駐して深夜でも対応している」（飯森悟支配人）という。飯田病院を経営する社会医療法人栗山会（飯田市）が市内に建設しているのが「ウェルネスタウンス丘の上」。7月の開所前に全36戸に仮予約が入った。「入居予定者の1割ほどは東京、京都など地域外から」という。2階が住居で、1階には診療所、訪問介護・看護、メディカルフィットネス、通所リハビリなどの施設を備える。地域交流スペースは認知症カフェにも開放する予定。地域包括ケアに貢献する施

所した40戸のサ高住「ロビテールー日市場」。住民も利用するデイサービスセンターや訪問介護ステーションのほか、フィットネスセンター、レストラン、認定こども園や学童保育施設まで備える。様々な年齢層が交流できる。運営する社会福祉法人、七つの鐘（同市）に

併設施設がないのは19%。併設施設で最も多いのは訪問介護・訪問看護等が57%で、通所介護等が45・6%、居宅介護支援が25・3%だった。最近では併設施設に特色を持たせる事例が多い。昨年6月、安曇野市に開